

新しい教育理念「創造」を揮毫した書
= 第一会議室



学校法人金沢学院が今年五月の学園創立六十周年を機に掲げた新しい教育理念の「創造」と、教育理念を实践するための三つの指標を記した書が十月十日までに揮毫され、額に収めて第一会議室と東高校校長室に掲げられました。書は、石川県書美術振興

新教育理念が書に

第一会議室と東高校に設置

会の高廣幸悠副理事長に依頼して揮毫されました。縦六〇センチ、横一七〇センチの大きさで、墨痕鮮やかに力強い筆致の書となっています。新しい教育理念は、女子高等教育の建学の精神「愛と理性」を男女共学の学園にふさわしい内容に発展的に改めて定められました。



太佐助教から自作絵画の寄贈

金沢学院大学美術化学部の太佐寿一郎助教から十月三日、学校法人金沢学院に対し、自作の油絵「見附島」・「写真上」の寄贈がありました。出身地である珠洲市の名所見附島を描いた10号の作品で、青い海に浮かぶ島を遠望して描いています。



発行・広報室

来春の就職へ熱く自己PR



参加企業のブースに座り、採用担当者と面談する学生
= 第一体育館

大学・短大の学内合同面接会

金沢学院大学・金沢学院短期大学の学内合同企業面接会は十月十三日、第一体育館で行われ、約百人の学生が、来年春の就職に向けて、企業の採用担当者に自己PRしました。秋の面接会は今年で三回目。五十社がブースを構えました。開会に当たって上山夏樹副理事長、田中晴人全学就職委員長が「学生を直接見て、業種、社風に合う学生がいれば、採用に向けてご配慮を願いたい」と挨拶しました。履歴書を持った学生は、目当ての企業のブースに座り、担当者に今後の採用方針を確認し、就職希望の意欲を伝えました。

今年は景気が拡大傾向にあることを反映して、ここ二、三年に比べて学生の内定状況は好調さを見せています。しかし、企業の採用試験に挑戦しても、なかなか内定を得られない学生もおり、就職関係の職員が会場でアドバイスする姿も見られました。

店頭から芸術作品を発信

金沢アートプロジェクトに本学参加

金沢駅前広場から金沢21世紀美術館までの金沢の都心軸沿いのショーウィンドーに学生の作品を展示するアートアベニューオフイスアート事業「金沢アートプロジェクト」が十月十日から約一月の日程で始まり、今回から参加した金沢学院大学の学生の作品が店頭に並びました。



同事業に出展したのは美術化学部の学生四十九人です。多彩な色あいと造形の工夫によって、自分たちの感性を形にした作品が十一月十日までの期間中、十



美術の人類学テーマに金沢学院大学基礎教育機構の土曜大学第六回講座「美術の人類学」は十月七日、二号館で開かれました。益子待也教授「写真左」が北米の先住民芸術などを材料に、史上三度にわたる視覚性（ビジュアルティ）の変容などについて講義しました。益子教授は、第一次変容はルネサンス期の数学的遠近法の確立、第二期は十九世紀前半のステレオスコープ（立体鏡）の発明、第三期は現代におけるアナログからデジタルへの変換を挙げました。

ボブラ並木周辺が一新
金沢学院四号館と五号館の間にあるボブラ並木の中間が九月末までに、紅殻アスファルトとブロック舗装「写真左」に改修され、すっきりと明るい景観に生まれ変わりました。従来は、中央通路以外の部分では土がむき出しとなっていたため、校内が汚れる原因の一つとなっていました。